

草加を再発見するフリーペーパー

そうせいじん

草生人

そうかまちづくり
新世代

新田
つくりにおいでよ
獨協大学前（旧松原団地）
パインアベニュー商店会
草加
そうかりノバージョンまちづくり
家守会社
ハハフェス

そうかまちだより

振り込め詐欺ストップ！／避難所を運営するための防災訓練

そうかグランドレザーフェスティバル／そうか公園修景池の水が抜かれた！

草加の2017年

2018 新春

表紙協力：つくりにおいでよ 3.5 wool100% マフラーを織ってみよう！（ソウイ）

そうかまちづくり新世代

まちおこし、まちづくりは、日本中の街にとって永遠のテーマだ。草加市でも長年に渡って、市が主導する事業や、商店会、町内会主催のイベントなど、まちの活性化のための様々な試みがなされてきた。そして今、注目すべき動きが見られる。

たまたま新田駅東口の空き店舗に同居したクリエイターたちは、「つくりにおいでよ」というワークショップを商店街で開催したことで、商店街とつながり、まちの活性化に貢献することになった。

獨協大学前駅（旧松原団地駅）東口エリアのお店からなる「パインアベニュー商店会」は、役員の世代交代を成し遂げたことによって、「街バル」など新たなイベント開催のチャレンジに成功し、商店会の会員増加に結びつけた。

草加駅東口側、旧道沿いでは、地域再生のために行政と市民たちが結集して「リノベーションまちづくり」という運動を推進している。

これらの動きはどれも熱くてポジティブだ。そして互いに影響し合い、人材もどんどん混じり合ってきている。あたかもひとつの大きな運動になっているようにも感じられる。

獨協大学前

新田

どつきようだいがくまえ

しんでん

アベニュー商店会

東武スカイツリーライン獨協大学前<草加松原>駅東口周辺の、飲食店を中心とした商店街の組織が、パインアベニュー商店会。2016年秋に役員の若返りに成功し、2017年4月、駅名変更を機に街バル「町張楽座」と食と音楽のイベント「虹空横丁」を開催した。

虹空横丁 街灯

和田一秀
村山伸二郎
松村真由美
関野博規

つくりにおいでよ

東武スカイツリーライン新田駅東口のふれあいロード商店街を中心に、各地からクリエイターたちが集まって開催されるワークショップイベント。主催者は左官職人の金澤萌さんと、アーティスト・デザイナーのRIKKENさん。ワークショップは商店街と強く結びついて、商店街の活性化に貢献しつつある。

新田 再開発 クリエイター ワークショップ

ふれあいロード商店街 キャラバン シェア工房

ツネ 大串好子 LEAD 金澤萌

RIKKEN FACTRY RIKKEN LUCIA 秋山広一

UNIT-S (草加ヤタイ) 大橋欣之 カフェレプラホーン

ガーゼショップ ange キリエット MINERAL FACTORY be artworks

GREEN BUCKER 森屋本舗 フラワーガーデン花小道

ガーゼショップ ange 延秀隆 Atelier Heureux

工房 shiba Texx 似顔絵 factory

オタマダクシ工房 AppleRose USHIROMAE

ソウイ 弥兵衛ファーム

草加の今と未来を知るために、新世代のまちづくり運動をこの特集でじっくりとレポートする。

ハハフェス

2017年9月27日に草加アコスホールで開催された、ママ＆親子向けのさまざまなワークショップやブースが一堂に集まるイベント。2016年開催の「草加ママフェス」後継イベント。

SOKA * MAMA 小林怜
スマイリーママ 上原美香
そうかぞく 廣政幸子



草加の大きなまちづくりの動きを見開きにまとめ、それぞれの活動の概要と、キーワード・キーマンの名前を書き出してみた。今草加で動いている「まちづくり」のうねりのイメージが、これで伝わればと思う。

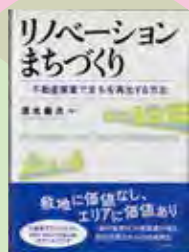
※敬称は略させていただいております。

谷塚

やつか

草加

そうか



そうか

リノベーションまちづくり

空き物件などの遊休不動産を利用し、民間の力でまちを再生しようとする活動が「リノベーションまちづくり」で、全国で活発に行われている。

草加市では「草加駅周辺市街地活性化事業」として進め、2015年から本格的にスタート。2016年には「リノベーションまちづくり構想」を策定・公開、「リノベーションスクール@そうか」を開催。スクールから生まれた案件が、今年は次々と事業化する予定。

そうかりノベーションまちづくり構想 旧道沿い
北九州市小倉魚町 清水義次 リノベーションスクール
現代版家守 (株) リノベリング
酒と野菜のバル スバル

草加市産業振興課 高橋浩志郎
「つなぐば家守舎」「奏草舎」
アオイエ
よろずキッチン恵登屋



パイン

獨協大学前駅 ちょうはりらくざ
街バル 町張楽座
ジモノミ
アドバンス
吉田良一 秋山広一
草加ガーデン
ワンスタイル
喜作
TRIP

家守会社

江戸時代に庶民のアパートであった長屋を管理し、地域をまとめていた大家さんのこと。現代版家守は「リノベーションまちづくり」における、まちづくりをマネジメントするための団体。

つなぐば家守舎 新田 八幡西公園 カワグチシンマチ
シェアアトリエ 小嶋直 松村美乃里 小林永美子
DIO : Do It Ourselves
奏草舎 TSC ボードステージ soso market
soka 3rd park cafe gallery CONVERSION
今井慶子 ChaviPelto 中山拓郎 中山かな
塚本正 Pelekas 新井由木子
ケセランパサラン 片野浩道 山口愛子

若いクリエイターたちが まちを変える

つくりにおいでよ

新田ふれあいロード商店街の一角で、「つくりにおいでよ」という名前のイベントがたびたび開催されている。

商店街にアトリエを構える二人のクリエイター、金澤明さん（左官職人「marumo工房代表」とRIKKENさん（アーティスト・デザイナー）を中心に開かれるワークショップイベントだ。

才能あふれる職人やクリエイターたちの活動が、今商店街の活性化に貢献している。

「つくりにおいでよ」がどのように始まったのか、金澤明さんとRIKKENさん、そしてふれあいロード商店街理事長の大串好子さんにお話を聞いた。

同じ建物に入居していた！

新田ふれあいロード商店街の一角にある2階建ての建物、1階はRIKKEN FACTORY、2階はLEADだ。



2016年3月、RIKKENさんと金澤さんが出会った。

金澤さんはふれあいロード商店街の空き店舗

の2階にLEADというアトリエを構えていたが、下の階は倉庫だと思っていた。ところが下で作業している人がいた。金澤さんは下の住人に思い切って「ここは何ですか？」と声をかけた。

そこはRIKKENさんのアトリエだった。「なんだここ、面白いじゃん」と金澤さんは叫んだ。

この出会いによって、2016年5月に、個展とワークショップ「LEAD×RIKKEN FACTORY」が開かれた。

7月には、複数のクリエイターを新田に集めてワークショップ「つくりにおいでよ」を開いた。このとき、アトリエの向かい側でLUCIAというブティックを営んでいる秋山広一さんが、「何やってんの？」とふらっと現れた。

秋山さんは「次は僕も入れて！ LUCIAも会場に使っていいから」と言った。ここから地元商店街との交流が始まった。

**いっばいつながった
9月のある日**

9月某日、RIKKEN FACTORYに5人のメンバーが集まって、次回のつくりにおいでよの打ち合わせが行われていた。

「そこで秋山さんが『ツネに行こう！』って言い出したんです。ツネに挨拶に行つてからのほうがいろんなことがやりやすいからって」（金澤さん）

駅前の喫茶店ツネのオーナー、大串好子さんはふれあいロード商店街の理事長でもある。彼女はイベント当日のトイレの使用や、さらには

第二会場としての店の利用など、全面的な協力を約束した。

そこからまた後日、参加者顔合わせ会のためにメンバーたちが通りにたむろしていたところに、たまたま革製品会社メシエジャンパンの茂垣行信さんが通りかかった。イベントの話聞いた茂垣さんは「おもしろいっすね」と、MCとして参加しているインターネット放送局「草加元気放送局」で取材することを申し出た。

本番前夜に流れた生放送は、「つくりにおいでよ」メンバーの個性やイベントの楽しさなどを伝えてくれた。

「9月のあの日はいっばいつながった！」と金澤さんは述べた。

**みんな喜んだ
つくりにおいでよ！2**

2016年11月23日に、「つくりにおいでよ！2」フライングクリスマス巻の」が開催された。

草加市内外の広い範囲から仲間が集まり、ワークショップと店が17組出店した。

喫茶店ツネでは7つものワークショップがフルに展開し、ほとんどメイン会場と言えそう



「つくりにおいでよ！2」の会場となった喫茶ツネ。入り口の案内スペース。

だった。

このイベントは予想を超える盛況となった。ワークショップ受講者は合計約100人だった。つくりにおいでよのワークショップは受講料が1000円から2500円と決して安くはない。受講者が100人に及んだことは予想外だったという。

見物客も200人は出て、各会場を巡っていた。

イベント終了後の打ち上げで、金澤さんは参加者や関係者たちに歓喜と感謝の気持ちを伝えた。「出店者もお客さんも商店街もみんな喜んだ！すごい！と思いました」

金澤明さん



RIKKEN さん



金 大串好子さん



街のためになった 「つくりにおいでよ3」

2017年6月4日、「つくりにおいでよ!! 3」父の日をムシしないでね!!」が開催された。ワークショップと販売店の数は19に増えた。さらにより多くの商店街の協力が得られ、空き店舗、空き地、駐車場なども会場になった。

空き地会場は、市内で工務店を経営する大橋



「つくりにおいでよ!! 3」の野外会場の様子。

欣之さんが作った「UNIT-S（草加ヤタイ）」という、シンプルで美しい木製の屋台が賑やかに立ち並んだ。UNIT-Sは組み立て式で持ち運びに便利のため利用者が増え、その後市内のさまざまなイベントで目にするようになった。

この日はたくさんの人々が新田を訪れ、ワークショップを見物し飲食を楽しんだ。ワークショップ受講者は、前回の約100人から169人へと増加した。

「アンケートに、街がつながりました、イベントに感謝します、みたいなコメントがあった。街のためという自覚はなかったけど、街のためになってるんだ、と思いました」（金澤さん）
またこのころには「つくりにおいでよ」のメンバーは草加のさまざまな動きに関わるように

なっていた。

RKKKENさんは、LUCIAの秋山さんが副会長を勤めるパインアベニュー商店会のイベントに、リーフレットデザインで関わった。

またRKKKENさんと金澤さんは、草加旧道を中心に展開する「リノベーションまちづくり」の活動に加わった。

ほかのメンバーも、コラボして商品開発したり、各地の様々なイベントに参加したりするようになっていた。

キャラバン…… 新田から飛び出した

2017年8月23日から27日、成長した「つくりにおいでよ」は、とうとう新田から飛び出した。つくりにおいでよのメンバーのうちの5人が2台の車に分乗して長崎と広島に向かい、イベントに出店したのだ。名付けて「つくりにおいでよ」キャラバン☆ファーストリップ☆。

手応えもあったが、収益については満足はいくものではなかったという。

「もっと知名度を上げなきゃと思った」（金澤さん）

そして「つくりにおいでよ」は新田に帰ってきた。2017年11月25日、「つくりにおいでよ3」を開催したのだ。

なぜ4ではなく3.5なのか。

「あえて3.5なんです。今のままバンとやっちゃうとただのイベント屋さんになりそう……。そうじゃなくて、ちゃんと作りますっていうイベントをやりたい」（金澤さん）

「もともとのコンセプトが、プロによるワークショップというものだったんです」（RKKKENさん）

そしてワークショップを4つに絞って、3.5が開かれた。



「つくりにおいでよ3.5」木原和人さん GREEN BUCKERのワークショップ

RKKKENさんによる「オリジナルの版をつくる」。木原和人さんのGREEN BUCKERによる「マクラメ編みのプラントハンガー&ラージサイズのテラリウム」。えはらしほさんの羊毛と古道具の店「ソウイ」による「wool 100%マフラーを織ってみよう!」。金澤萌さんのLEADによる「しっくりかまどをつくろう!」。

ワークショップ受講者はそれぞれ1人から4人と少数精鋭。参加料はランチ代も含めて9000円から1万2000円と高額。そして5時間もかけて取り組む本格的なプログラムであった。

それだけに完成した達成感も大きかったことだろう。

再開発のヴィジョンにつなげば

ふれあいロード商店街がある新田駅東口地区は今再開発が進んでいて、建物が壊されて更地になっているところもある。そんな状態なので、空き店舗が借りやすい。若いクリエイターや職人が入居して、アトリエや作業場として利用するようになった。

クリエイター達が開くイベントによって「新田はクリエイターの街」というイメージが定着すれば、再開発後のヴィジョンにつながるかもしれない。

大串さんは語った。

「大家さんとコラボして1階を貸すスペースにしませんか、って提案したい。夢だね。クリエイターの集まる街並にしたいよね!!」
「つくりにおいでよ」はこれからも回を重ねていくだろう。

そして再開発によって、いったんアトリエを閉鎖する時がやってくる。LEADとRKKKEN FACTORYはどこに行くのか……。

「シェア工房を作りたいと思ってます」とRKKKENさんが明かしてくれた。
シェア工房。共用の作業場だ。

「大型の機材を入れてガンガン音が出せるような場所。思いついたときに誰でも寄って、何か作りたければ作れるみたいな、そういう場所」（RKKKENさん）

新田を中心に今物件を探しているという。ほかにも驚く新展開が待っているかもしれない。当分目を離せない。



「つくりにおいでよ」

参加クリエイティブ

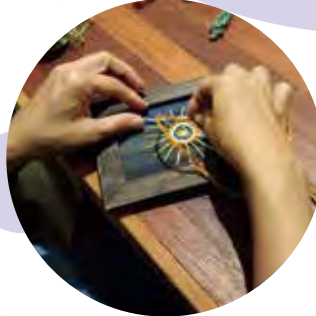
marumo 工房 (LEAD)	金澤萌さん	漆喰造形
RIKKEN FACTORY	RIKKEN さん	シルクスクリーン
MINERAL FACTORY	大野智司さん・七条道子さん	天然石オーダーアクセサリー
be artworks	栗山秀夫さん	人形作り
GREEN BUCKER	木原和人さん	テラリウム
森屋本舗	森陽子さん	くるくる織りのコースター
フラワーガーデン花小道	横山裕美さん	ブリザーブドフラワー
ガーゼショップ ange	上原美香さん	布モチーフワーク
キリエット	木木ヒサオさん	切り絵ワーク
延 秀隆さん (写真家)		カメラワークショップ
Atelier Heureux (あとリエ うーる)	杉森幸子さん	石鹸ワークショップ・カップケーキバスボム
工房 shiba	下山直子さん	かわいい陶器のタイル作り
Texx 似顔絵 factory	Tetsuya Furuhashi さん	一緒に似顔絵を描いてみよう
オタマチャクシ工房	今出央介さん	陶器ねんどでマグネットを作ろう
AppleRose	小林怜さん・秋山広一さん	キューブブロックでキャンドル作り♪
USHIROMAE	福村彩子さんと山内賢二さん	画家のアトリエを公開
羊毛と古道具の店ソウイ	えはらしほさん	wool100% マフラーを織ってみよう！

つくりにおいでよ！ 2

つくりにおいでよ！！ 3

つくりにおいでよざキャラバン

つくりにおいでよ 3.5



会場協力	ブティック Lucia	ワークショップ・作品販売会場
	ツネ 大串好子さん	ワークショップ・食事スペース
飲食	大橋欣之さん	UNIT-S (草加ヤタイ) 提供
	弥兵衛 (やへゑ) ファーム	おいしいお米と大豆
	オタマチャクシ工房 + CAFE	無農薬玄米や野菜をたっぷり使った家庭料理 CafeD ランチ&ドリンク
	自家焙煎珈琲屋カフェブラホーン	コーヒー
	じゅんちゃんちの曲げわっぱ弁当	曲げわっぱ弁当
	おいしさ工房 愛と勇氣	ランチ

メンバー一新で 生まれ変わった商店会

パインアベニュー商店会

本格的な街バルが開催された

2017年4月1日、東武スカイツリーライ

ンの松原団地駅が「獨協大学前(草加松原) 駅」に名称変更された。駅の東口の商店街に立ち並ぶ街灯1本ずつに、記念のフラッグが掲げられた。

そして、4月29日(土)と30日(日)の2日間、駅の東口に広がる商店街では駅名変更を記念して、「町張楽座」と銘打った街バルが開催された。「町張」はこの地域の昔の名称。「まちばる」の当て字と勘違いした人が多かったとか。

街を1軒の店に見立てて
食へ歩きをする

「街バル」の「バル」はスペイン語のBAR(飲食店)のこと。街バルは、参加者がチケットを購入して、街全体を1軒の飲食店に見立てて店から店へと食べ歩き飲み歩きするイベントだ。商店街の活性化を目指して近年全国で開催されている。

街バル「町張楽座」を楽しむためには、まず「町張楽座」の幟を掲げる店で1シート3000円のチケットを買う。1枚600円のチケットが5枚綴じられている。



パインアベニュー商店会の街灯。駅東口エリアに49本立っていて、電気代や維持費は主に商店会が負担している。

いっしょにもらったリーフレットを拡げると地図と参加店の紹介が載っている。その店に行ってチケットを渡して、料理とドリンクをいただく仕組みである。

参加した飲食店は22店舗。美容院、花屋、不動産屋などの店も7店舗加わって、合計29店舗のラインナップとなった。

初めての店でも、チケットを1枚(豪華メニューは2枚)出すだけなので、恐れることなく入れる。

料理や酒を味わい、店員や客たちと触れ合い、楽しい時間を過ごしたあとは次の店へと夜の街を歩き出す。気に入った店はまた今度来よう、と密かに決意する。

街バルは店と街の魅力をダイレクトにアピ



ルできるイベントだ。

同時に開催した「虹空横丁」は、音楽と料理のイベント。

草加市内外から11の店が集結し、丹精込めた新感覚の料理が振る舞われた。ここでも街バルのチケットを使う。

また、会場ではフォークデュオやセッションバンド、迫力のビッグバンドなどのライブも響き渡った。

事前に街バルのことを知らなかった市民たちに、「何かやってる!」とアピールする効果もあっただろう。

このままでは街灯が消える!?

「町張楽座」と「虹空横丁」を企画し実現させたのは、東口一帯の商店で構成される「パインアベニュー商店会」の役員たちだ。

パインアベニュー商店会の会長は吉田良一さん(不動産会社・アドバンス代表取締役)。



「そのときは加盟店が多かったし盛り上がりてましたね。音楽イベントを開いたり店紹介ビデオ作ったり……」

だが、盛り上がりは続かなかったという。「10何年やっているとやっぱ疲れてきちゃって」と和田さん。

役員たちの高齢化もあり商店会の推進力が失われ、「気がついたら会員が少なくなっていた」という。

吉田会長はこう語る。

「このエリアには商店は250店ぐらいありますが、加盟店は30店舗ぐらいになってしまいました」当然、会費収入は減少してしまっ

3人の副会長が、和田一秀さん（花屋・草加ガーデンの店長）、秋山広一さん（フティック・ルシアのオーナー兼アドバンスの社員）、そして村山伸二郎さん（美容院・ワンススタイルのオーナー）。会計・書記は松村真由美さん（飲食店・喜作の総務部長）。

そして「虹空横丁」の企画、制作進行担当は関野博規さん（バー・TRIPのオーナー）。

パインアベニュー商店会の役員は、昨年10月に新たに就任したばかりの顔ぶれだ。彼らの柔軟な発想と粘り強い実行力、そしてチームワークによって、商店会そのものが変わりつつある。

パインアベニュー商店会は、松原団地駅東口商店会から1994年に名称変更した。それ以来商店会はさまざまな活動をした。副会長の和田さんは当時をこう語る。

「商店会の費用は何にいちばんかかるのかという、電気代なんです。商店会のエリアには街灯が49本立っている。その電気代は、一部は行政に負担してもらってますが、大部分は商店会が負担しているんです」（吉田会長）

商店会が保有する資金はどんどん減っている。このままではイベントどころではない。街灯が故障でもしたら、その修理も商店会が負担しなければならぬという。

「みなさんに危機感を持ってもらうために一回街灯を消してみるか、という話をしたこともあります」（吉田会長）

会員の減少はそれほど大きい問題だったのだ。そんな危機感を共有する人たちがいた。彼らは動き出した。

2016年の8月、当時副会長だった和田さ

んは、村山さんと松村さんと相談して、やはり副会長だった吉田さんに会長就任の打診をした。

吉田さんは「2年間の約束」で新会長に就任した。

吉田さんはパインアベニュー商店会を蘇らせるためには、役員を新しい顔ぶれにすることが不可欠であると訴えた。10月の役員会で、ついに新しい役員の就任が承認された。

会長の吉田さんは61歳で、和田さんが50代、秋山さんと松村さんが40代後半、村山さんが40代前半だ。役員の世代交代に成功し、新生パインアベニュー商店会が誕生した。

飲食店が関心を持つようなイベントを

松原地区には巨大なイベントが控えていた。駅名変更である。2017年4月から新しい駅名「獨協大学前駅（草加松原）」が始まる。

「駅名変更は商店会の悲願だったんです」（吉田会長）

「松原団地」という古びた名称をなんとか消し去りたかった。商店会の名前を「松原団地東口商店会」から「パインアベニュー商店会」に変えたのもその思いからであった。

この貴重な機会に合わせて、何かイベントをやろうという機運が生まれた。松原地区のイベントと言えば「パインジャズフェス」に代表される音楽イベントが有名だっ

た。

だが吉田会長は「街を支えている飲食店の人たちが関心を持つようなイベントでないと空回りする」と考えた。

イベント担当になった副会長の秋山さんが提案したのが「街バル」の開催だった。

「逗子でやってた街バル、僕も何回か行ってたんですよ。これはいい、やってみよう！ と思いました。店を紹介できる。お客さんに街を回遊してもらえよう！」

こうして街バルの開催は決定した。日程は4月29日と30日にした。秋山さんが動き出したのは年明けになってからだった。

「知っている店に足繁く通って説明しましたよ。でも理解されずに断られたりしてね。最初は10店舗か12店舗ぐらい。そこから増やすのに苦労しました」（秋山さん）

秋山さんの奮闘は役員チームが支えていた。とくに松村真由美さんは資料作りや店への丁寧な説明のフォローで貢献した。「自分が動ききれてないところを松村さんが全部カバーしてくれた」（秋山さん）

「町張楽座」の2日間、参加店はどこも多くの客さんで賑わい、無事に乗り切った。「成功だったと思います。最初にしては良かったんじゃないでしょうか」（秋山さん）

当日の盛り上がりを見て、次回は参加したいと言ってくれたお店もあったという。



吉田良一さん



和田一秀さん



秋山広一さん



松村真由美さん



村山伸二郎さん



関野博規さん

音楽と料理が 虹のように混ざっていくイベント

バーナーPのオーナー関野さんは、食と音楽という共通言語で、地域を越えて人を繋げられるプロデューサーだ。以前にも「虹音クッキ



食と音楽のイベント「虹空横丁」は、駅東口ロータリーのすぐそばの駐車場で開催された。

ングフェス」という料理と音楽のイベントを何度か主催した経験がある。

関野さんは秋山さんから「イベントやる？」と声をかけられたとき、「やりたいです！」と答えた。

会場は駅近くの駐車場に決まった。

街バルのタイトル「町張楽座」の文字面、語感に合わせてイベントタイトルを「虹空横丁」とした。

様々な食べ物や音楽が虹色のように混ざっていくイメージですね」

チラシのイラスト、デザイン、会場のプランニング、出店者、出演者の選定もすべて関野さんが自ら手と足を動かして創りあげた。

関野さんには夢がある。

「いつか音楽と料理の混ざった大きいフェスがやりたいですね。それを楽しみにしてくれる人たちが草加に集めたい」

地元で飲もう！

パインアベニュー商店会の会員を増やすという目標はどうだったか。

吉田会長によると「会員は1年間に倍増して、今63店舗」という見事な躍進ぶり。

「商店街がもっと盛り上がって、今入んなきゃ損だな、と思っていただければいい」

それでも活動費はまだ不足している。そこで新たな収益の方法を検討しているという。

「街灯に吊るしているフラッグを広告スペースとして利用させてほしい、と今言っているところです」

街灯は商店会のものだが、道路は県道や市道なので、商業利用するには許可が必要だ。幸い、県市も前向きに考えてくれて、調整を進めているそう。

49本の街灯からの収益は、商店会の財政をかなり助けるだろう。

副会長の1人村山さんは広報担当で、商店会

の紹介や街のニュースを掲載する広報誌『パインアベニュー商店会 かわら版』を、一人で取材執筆し、発行している。

村山さんは、パインアベニューの良さをみんなに知ってもらいたいというも考えている。

村山さんが次に仕掛けたのが、「ジモノミ」、つまり「地元飲み」のキャンペーンだ。

具体的には「そうだなー今夜は地元で飲もう！」というキャッチコピーが書かれたポスターを作り、あちこちに貼っていく。

ポスターには、いかに美味しくそんな料理やお酒の写真が敷き詰められている。実際松原にはうまい店が多い。

『いい店ない？』って聞かれたときに得意げに話せる、行きつけの店を持ちませんか、っていうポスターです」と村山さんは話した。

「松原で飲もう！」でなく「地元で飲もう！」にしたのは、広い範囲に活用できる可能性を持たせるためだ。新田の店を紹介する内容にすれば新田にも貼れる。それを日本中に活用できる。

もしも「ジモノミ」という言葉が流行したら、その発祥はパインアベニュー商店会だ。

商店会は若返ったほうがいい

次の街バルはまた春にやろう、と吉田会長は提案している。1回成功した実績があるので、参加店はかなり増えるだろう。期待が高まる。吉田さんは会長職は2年だけ、と言っていた。残りは1年しかない。本当に辞めてしまおうのだろうか。

「若返った方がいいんです」と吉田会長は語った。「この団体でも若い人がどんどん出るべきです」

それにしても吉田会長のもとには素晴らしい人材が集まった。

「もともと自分一人じゃ何もできなかった。だから自分で経営していて、若くて、街のことを考えてくれる人たちに役員をお願いしたんです」

チーム吉田の精神は受け継がれるだろう。

松原で食べられる、おいしいような料理や酒の写真が散りばめられたポスター。「ジモノミ」ブームは来るか！

同級生何人来るかな？ (ハハ)

たまには親子でサシ飲み (ハハ)

ハッシュタグ
『#地元で飲もう』
協力加盟店募集中

パインアベニュー商店会

行政と民間の密な協力で 旧道のにぎわいを取りもどす

そうかリノベーションまちづくり

旧道沿いが今熱い、
「リノベーションまちづくり」

2017年9月24日、高砂コミュニティセンターの大会議室は人で溢れていた。「そうかリノベーションまちづくり」第2回リノベーションスクール@そうかの公開プレゼンテーションに、まちづくりに関心のある多くの人が詰めかけたのだ。子どもが愛着を持てるまちの映画館「家族で過ごせる洋食屋」など4つの提案がされ、その都度大きな拍手がわき起こる。

草加市が「草加駅周辺市街地活性化事業」として進めている政策が「そうかリノベーションまちづくり」だ。いわゆる「旧道沿い」の活性化をめざすもので、2013年度からの現状調査から始まり、2015年から本格的にスタート。2017年には「そうかリノベーションまちづくり構想」を策定公開。最初のページに、草加市がめざすまちの姿が日記形式で書かれている。最後の一文を引用する。

「寝に帰るだけだと思っていたこのまちで、こんなに楽しく『暮らす』日々があることに、このまちに暮らしてよかったと実感している。こ

んな当たり前の日常が楽しく、来週のイベントも楽しみだ。」

行政と民間の理想的なタッグ

「リノベーションまちづくり」とは、「空き物件などの遊休不動産を利用し、民間の力でまちを再生しようとする活動」のことをさす。2011年、北九州市小倉魚町が始まった。

そのしくみを生み出したのは、都市・地域再生プロデューサーの清水義次氏。新規ビジネス立ち上げのコンサルティングに飽き足らず自ら事業を行うようになり、いくつかの地域再生事業の成功を経て、この手法で「まちを変える」ことを考えるようになったのだという。そして、そのノウハウを伝授し短期間で事業化をめざす「リノベーションスクール」のシステムを思いつく(※1)。2013年から熱海を皮切りに全国展開が始まり、2017年9月現在、全国36の都市・地域で開催され、3000人の卒業生を生みだしているとのこと。

「リノベーションまちづくり」が今までの「まちづくり」と違うところは、行政と民間(市民)がしっかりと役割分担をし、非常にうまくか

み合っていることだ。

行政側の役割は、「どういうまちにするか」コンセプトをまとめること、該当地区の空き家や空きスペースなどリノベーションに適した物件を探すこと。次に、まちづくりに関心がある人や起業したい人、スクールの応募者を募り、スクール後を考え丁寧に入選すること。

リノベーションスクールに応募・採用された人、民間側は、与えられた物件の事業化案を考え、その実現をめざすことになる。

まちを変える「実践」するワークショップ

「リノベーションスクール」では、物件ごとにユニットと呼ばれるチームを作り、3日間のスクール期間中に、該当物件の活用を具体的に企画して事業化案をまとめ、物件のオーナーにプレゼンテーションするところまでを行う。まちづくりのコンセプトを念頭に置き、しっかりと収益を考えた企画を考えねばならない。

第1回リノベーションスクールでは、ユニットBの「酒と野菜のバル スバル」が、スクール後半年たらずに開店、地元で評判のお店になった。これは現実的でしっかりと企画の賜物だ。

スクール卒業後、ユニットのメンバーの多くが企画を実践するためにチームを組むが、このチームを「現代版家守」と呼んでいる。「家守」は、江戸時代に庶民のアパートであった長屋を管理し、地域をまとめていた大家さんのこと。現代版家守は「まちづくりをマネージメントするための団体」だ。ユニットA・Cはそれぞれ「つなぐ家守舎」「奏草舎」として活動し、事業化を進めている(12ページ参照)。

全国で展開されているリノベーションスクールのうち、草加市のようにすべての案件が事業化に動いているのはまれだそう。

「まちを変えたい」と思う人が集い、繋がりが、広がる

リノベーションスクールのリーダーや、ユニットのリーダー(ユニットマスター)たちは「まちづくり」を実際に成功させ、現在進行形で活動している個性豊かな人々だ(左ページ参照)。スクール期間中、彼等が自らの経験を語る「ライブアクト(レクチャー)」が何回か公開され、その実行力、バイタリティに感動した。「リノベーションまちづくり」は、そういった人材を草加で発見し、活躍の場を与えて繋がりを促し、「まちの活性化」の勢いを生み出すことに成功している。

実際、2回目のリノベーションスクールには「つくりおいでよ」の金澤萌さん(サブユニットマスター)と福地立憲さん、他に塚本正さん(草加元気放送局/奏草舎)、上原美香さん(スマイリーママ)など、すでに草加で積極的にまちづくりの活動をしている人々が参加している。

「リノベーションまちづくりの肝は人材力なんです。自分でもちの未来を作りたいという意欲を持って実際に行動する人をいかに発掘し繋ぐか」これは、「リノベーションまちづくり」を進めている草加市産業振興課の課長 高橋浩志郎氏の言葉だ(草生人2016年初秋号掲載)。

今年は、2回のリノベーションスクール卒業生による案件が次々と実現する年になるだろう。変わっていく草加に、わくわくしている。



※1:「リノベーションスクール」のプログラムは、「リノベーションまちづくり」のノウハウとまちづくり専門家のネットワーク・人材をかかえる(株)リノベリングが提供 <http://renovaring.com/>。講師・ユニットマスター(左ページ)の方々はとても魅力的なので、ぜひ詳細を調べてみてください。スペースの関係上、掲載できなかった方には深くお詫びいたします。

「そうかりノベーションまちづくり」の記録

2013 年度	「草加駅東口周辺にぎわい創出調査」の実施
2014 年度	「草加駅東口周辺にぎわい創出基本計画」策定に向けた庁内調整会議設置（全3回の会議、地域住民などのヒアリング）
2015 年度 6 月	キックオフミーティング（講師 清水義次氏）
9 月	「そうか 実践！家守塾」開催 「第1回そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会」開催
12 月	「リノベーションまちづくり講演会」（講師 大島芳彦氏）
12 月	「第2回そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会」（ゲスト 嶋田洋平氏）
2 月	「まちづくり講演会」（講師 一般社団法人 エリア・リノベーション・アライアンス 木下齊氏）
2 月	「第3回そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会」（ゲスト 安井浩和氏）
3 月	「第4回そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会」
2016 年度 5 月	「第5回そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会」
5 月	「職員向け講演会」（講師 清水義次氏、(株)オガールプラザ 岡崎正信氏）
6 月	「まちのトレジャーハンティング@そうか」開催
7 月	「第6回そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会」
8 月	「第7回そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会」（ゲスト 国土交通省都市局公園緑地・景観課長 町田誠氏）
8 月	「まちの学校 vol.1 カフェからはじまるまちづくり」（講師 嶋田洋平氏 嶋田玲子氏（あぶくり店主） 岡崎友美氏（松庵文庫店主））
10 月	「まちの学校 vol.2 あなたの不動産がまちを変える」（講師 (有)ユウ 茨田禎之氏、(株)南荘石井事務所 石井秀和氏、大島芳彦氏）
11 月	「第1回リノベーションスクール@そうか」開催
1 月	「そうかりノベーションまちづくり構想」策定
1 月	「よろずキッチン恵登屋」オープン
3 月	「まちの学校 vol.3 ～リノベーションまちづくり構想と家守の役割について～」開催（講師 清水義次氏）
3 月	「野菜とお酒のバル スバル」オープン（第1回リノベーションスクール@そうか事業化案件）オープンセレモニー
2017 年度	「まちの学校 vol.4 ～顧客目線の店づくりでお店は劇的にかわる～」開催（講師 モノコトコネクション（株）代表取締役 徳光次郎氏／魚町商店街振興組合理事長 梯輝元氏）
7 月	「まちの学校 vol.5 ～飲食店はまちを彩るアーティスト～」開催（講師 (株)グリッパセカンド 金子信也氏）
8 月	「まちの学校 vol.6 ～空間を使い倒せ!!～」開催（講師 西村浩氏）
9 月	「第2回リノベーションスクール@そうか」開催

「そうかりノベーションまちづくり」スタート！

対象となる物件を見学し、企画を立案するワークショップ&レクチャー。「リノベーションまちづくり」の啓発と、「リノベーションスクール」の前哨戦。

「リノベーションまちづくり構想」を作成するための検討委員会。公民合わせて19名の委員より構成。委員長は清水義次氏。

「まちの資源＝宝（空間・産業・文化・歴史・人）」を見つけ、ユニークでワクワクする企画を立案するワークショップ。こちらも「リノベーションスクール」の前哨戦。

「まちの学校」はテーマを絞った講演。「まちづくり」のさまざまな成功事例の体験談や「リノベーションまちづくり」に関わる内容など。

「リノベーションスクール@そうか」第1回開催

「リノベーションスクール」は、まちづくりの専門家とまちづくりしたい人がチームを組み、3日間徹底的に思いをぶつけ合って熱い時間を過ごし、企画を実現に向けて形にする場。



「よろずキッチン恵登屋」はリノベーションまちづくり構想検討委員会に「不動産オーナー／家守」として参加した委員の一人、野口貴史氏が自宅酒屋を自らリノベーションした物件。

「リノベーションスクール@そうか」最初の事業化案件オープン

「リノベーションスクール@そうか」第2回開催

「リノベーションまちづくり」「まちの学校」の講師、ユニットマスターを担当された主な方々（敬称略）

清水 義次

(株)アフターヌーンソーエティ代表取締役、一般社団法人公民連携事業機構代表理事、内閣官房地域活性化伝道師、そうかりノベーションまちづくり総合プロデューサー。

青木 純

(株)まめくらし代表取締役、(株)都電家守舎代表取締役、(株)リノベリング代表取締役、(株)タンガテーブル代表取締役など。遊休不動産の転貸事業や飲食事業「都電テーブル」を展開中。

大島 芳彦

(株)ブルースタジオ専務取締役。2000年よりブルースタジオにてリノベーションをテーマに建築設計、コンサルティングを展開。リノベーションスクールでの実績により、2015年に「日本建築学会教育賞」を受賞。

岸本 千佳

(株)addSPICE代表、不動産プランナー（宅地建物取引士・賃貸不動産経営管理士）。不動産企画・仲介・管理を一括で受け、建物をプロデュース。改装可能物件サイト「DIYP KYOTO」の運営など。

桑原 宏治

(株)333代表取締役、AKファーム法人担当。野菜とお肉のバル333を2店舗、野毛山のマンションガレージ内に居住者と近隣住民向けのkioskを兼ねたコミュニティスペース、飲食店専門の農直野菜の卸業を運営。

塩田 大成

(株)ビルスタジオ代表取締役。栃木県宇都宮市もみじ通りで不動産・建築設計・地域プロデュース・グラフィックデザイン等「空間/場所づくり」を行う。栃木県初のシェアハウス「KAMAGAWA LIVING」などをプロデュース。

嶋田 洋平

(株)らいおん建築事務所代表取締役、(株)北九州家守舎代表取締役、(株)リノベリング代表取締役、(株)都電家守舎代表取締役、(株)タンガテーブル代表取締役など。

瀬川 翠

シェアハウス「武蔵境アインモナイツ」代表、設計事務所Studio Tokyo West代表、銭湯再生会「銭湯JAPAN」デザインチーム代表、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院博士課程。

西村 浩

(株)ワークヴィジョンズ代表取締役、(株)リノベリング代表取締役、マチノシゴトCOTOCO215代表。建築家/クリエイティブディレクター。日本建築学会賞、土木学会デザイン賞、BCS賞など受賞多数。

宮崎 晃吉

HAGISO代表 (株)HAGI STUDIO代表取締役、建築家/一級建築士、一般社団法人日本まちやど協会代表理事、株式会社まちあかり舎代表取締役、東京芸術大学建築科非常勤講師。

安井 浩和

(株)稲毛屋代表取締役、株式会社都電家守舎代表取締役。2009年『こだわり商店』OPEN。2013年、都電家守舎を設立。2015年、都電テーブルオープン。

吉野 智和

事業企画プロデューサー、久遠チョコレート 西日本統括リーダー兼プロジェクト推進リーダー。20歳より障がい者施設に10年勤務。30歳で障がいのある人と社会を繋げるデザイン活動を開始。

第1回リノベーションスクールから生まれ、今年の事業化をめざす
2つの家守会社「つなぐば家守舎」と「奏草舎」を紹介。

家守会社

つなぐば家守舎



松村美乃里さん、小嶋直さん、小林永美子さん

第1回リノベーションスクールのユニット
Aが母体となった家守会社。

「子連れで働きに来られるシェアアトリエ『こもりば』を提案、事業化に向けて取り組んでいたものの、その物件で火災が発生し中断。だが、「一旦そこで止まって考える時間を持たせたい」と前向きにとらえ、改めてコンセプトを実現する物件を探し出し、去年末ついに実現に向けて動き出した。

当初の案「こもりば」は、「ママたちだけじゃなくて、世代を超えて繋がっていくというのを考えて」「つなぐば」と変えた。

コンセプトは「つながる場所」。「仕事につながる／母親とつながる／地域とつながる」。会社の理念として、『女性が笑顔でいられる』まちづくり」を掲げた。

メンバーはサブユニットマスターを務めた一級建築士の小嶋直さん、デザイナーの松村美乃里さん、不動産の仕事に携わる小林永美子さん。松村さんは故郷静岡が大好きで、草加に来たとき「何もなかったところだと思った」。が、娘が生まれて「娘にも生まれ育った街を大好きになって欲しい。そのためには何ができるか」と思い、草加市が主催した「3ピズ」(※1)「実践！家守塾」そして「リノベーションまちづくり」に参加した。

小林さんは、子どもを保育園・学童に預けて働く生活だった「毎日が追い立てられていた」。「子どもがただいまって帰ってきたと

3本の木がある「八幡西公園」。その向こうに見えるのが、工事を待つアパート。



昨年の「草加 Welcome Festival」にてワークショップ形式で作られた「つなぐば」の看板



き、今日の顔色を受け止める場所」として「つなぐば」を考えた。

小嶋直さんはリノベーション物件として知られる「カワグチシンマチ」(※2)で設計事務所「CoDesignStudio」のアトリエ&ショップを構える。そこでは働くお母さんも多く子ども達が「たいたいま」と帰ってきていた。「彼女たちから話を聞いたとき、そんな場所が草加にもあったらすごくいいなって思った」。

新しい場所は、新田(八幡町)の古いアパートだ。目の前にある八幡西公園には素敵な3本の木があり、それがロゴマークに重なる「ひとめで決めた」そう。車の通行も少なく子どもが安心して遊べる環境がある。

12月に開催された説明会では、3人が「つなぐば」への熱い思いを語り、「私たちでつくろう。DIO (Do It Ourself)」と呼びかけた。これから工事が始まるが、「解体DIO」「断熱DIO」「左官DIO」など、一部をワークショップの形で進めていく。また、シェアアトリエとして貸し出す部屋の内装は、借り手が行えるそうだ。

「自分達の暮らしを自分達で作れるように、愛着を持って暮らせるように。DIOをしている大人の姿を見た子どもが、お父さんお母さんカッコイイなって思っていたんだ」(小林さん)。

配布されたパンフレットには、つなぐばの前や公園で遊ぶ子どもと家族が、柔らかなイラストで描かれている。みんなの明るい笑い声が聞こえてくるようだ。

奏草舎

第1回リノベーションスクールのユニット
Cが母体となった家守会社。

メンバーはサブユニットマスターを務める、市内で都市農業を営む農家であり「ChavPato」を運営しているデージーフレットシユの中山拓郎さん、草加のインターネット放送局「草加元気放送局」に関わる塚本正さん、リノベーションの先駆けともいえる「カフェギャラリーコンバション」のオーナー今井慶子さんの3人。実はみなさん以前「草生人」で取材させていただいている(※3)。

今井さんの市との関わりは、3年前に草加市で主催した女性起業家向けの講演会の講師を依頼された時からだという。「そうかりノベーションまちづくり構想検討委員会」の委員でもある。

そしてコンバション内の素敵な書店「Belecas」の店主でありイラストレーターの新井由木子さん、中山拓郎さんとともに「ChavPato」を切り盛りする中山かんなんさん、草加市歌のCDを出したデュオ「ケセラパンパ」のお二人(片野浩道さん、山口愛子さん)が、創設メンバーとして名を連ねている。



中山拓郎さん、今井慶子さん、塚本正さん



去年9月に開催された「soso market なつこのし」



去年11月「街グル」の奏草舎ブース



ンまちづくり」が始まる前から、それぞれの分野において地元でバリバリ活動しているメンバーが「リノベーションまちづくり」を通じて手を組み、設立した会社なのだ。

奏草舎のサイトには、家守会社、リノベーションまちづくりの基本となるコンセプトが書かれている。「まちの課題を魅力に変えていくことによりサステイナブル(※4)なまちづくりを実現していく家守会社です。リノベーションによるエリアプロデュースと再生を行ない、賑わい、憩い、繋がりに溢れる非日常的体験や空間を創造していきます。」

対象物件は草加駅東口の埼玉りそな銀行前にある「TSCボードステージ」。リノベーションスクールで提案されたのは「soso space(自転車と一緒楽しめる場所。選ばれた美味しいコーヒーが飲める&お手軽ビザなどが食べられる場所)」。その場所では、すでに奏草舎主催の「soso space」が3回開催され、「こだわりの店が来るちよっとおしゃれな市場」という認識が市民の間でも定着しつつある。

「ボードステージ」は市の所有物だが、去年11月に事業を進めるための権利を得ており(※5)、今年春から工事に入ること。

メンバーの皆さんの活動を数年前から追いかけてきた「草生人」として、ボードステージがどう生まれ変わるのか、とても楽しみだ。

※1 草加市創業スタートアップセミナー「わたしたちの月3万円ビジネス」 ※2 KAWAGUCHI SHINMACHI: カフェ、お店、事務所が集まるコミュニティ
※3 今井慶子さん: 草生人 2017年早春号「草加のカフェ」、塚本正さん: 草生人 2013年秋号「そうかまちだより 草加元気放送局」、中山拓郎さん: 草生人 2012年8・9月号「草加の元気人」 ※4 サステイナブル (sustainable) 持続可能であること、とくに環境破壊をせずに維持、継続できるという意味の英語 ※5 「草加市高砂二丁目地内まちづくり推進事業用地利活用事業者選定に係る公募型プロポーザル選定」

ハハフェス

谷塚を拠点に活動したい

2017年9月27日、草加アコースホールが赤ちゃんを背負ったママさんたちで溢れた。ママ&親子向けのさまざまなワークショップやブースが一堂に集まる「ハハフェス」が開催されていたのだ。

これは2016年に開催された「草加ママフェス」の後継にあたるイベント。前回、準備が短いにもかかわらず多くの人を集めたが、今回も用意したパンフレット300枚は開場1時間で無くなり、ホール外にはベビーカーがびっちょり並ぶ大盛況。午後にはいかにも視察にきました、という背広姿の男性がちらほら現れ、「平日の昼間なのに」と驚いていたという「ママフェス」の詳細は「草生人2017年早春号」を参照。

「ママフェス」「ハハフェス」の仕掛け人は「SOKA*MAMA」こと小林怜さんだ。すでに市内のさまざまな街の活性化団体や活動とつ

ながりをもち、少しでもまちづくりに関心のある人なら、知らない人はいないという存在だ。

ハハフェスでは、イベント責任者として全体の管理運営を担っただけではなく、スポンサーの手配や会場の配置などもすべて担当。会場の管理は出店者からリーダーを指名し、エリアやイベントごとに運営を任せる方式をとった。「みなさん同じベクトルを持っているので、少し話すだけで、思い描いているようにできたんです」と笑う。

「宣伝方法も考え抜いた。近場の保育園や幼稚園は実行力のあるママさんの口コミなどに任せ、2万5千枚用意したチラシは、市の端や周辺地域（川口市・越谷市・八潮市など）に向けて配布した。人数に限りがある「ベビーマッサージ教室」など開場前から行列ができていたが、市外から訪れた人が多かったそうだ。

こういったまちのイベントの多くは商店会役員などによる実行委員会形式が多く、臨機応変に動きにくい。小林さんの機動力がイベントを大成功に導いたといえるだろう。

小林さんは、ハハフェスに参加した「そうかぞく」「スマイリーママ」だけではなく、今号でとりあげた「つくりおいでよ」の金澤さんや、「バインアベニュー商店会」の秋山さんなども親交が深く、草加全体に人脈がある。

だが、小林さんは谷塚在住であり、「ハハフェス」のスタッフの多くが谷塚に住んでいることから、「活動拠点を谷塚に設けられたら」と思っているんだと話してくれた。

2021年には、谷塚駅の徒歩圏内にある足立区花畑に文教大学が開校される。（東京あだちキャンパス 2021年4月開設 国際学部・経営学部）

谷塚の今後に期待しよう。



「ハハフェス」参加のメイン2団体

スマイリーママ

子どもを持つママを対象にしたワークショップ、子ども向けのサロンなどを主催している団体。個人で資格や特技、趣味を生かして仕事をしている女性の集まりで、2015年に設立された。それぞれの活動を応援しつつ、「スマイリーママ」として定期的にワークショップイベントを開催している。また、周辺地区のイベントにも積極的に参加し、地域の交流にも尽力。代表の上原美香さんは、第2回リノベーションスクールに参加し、現在「キッチンスタジオ アオイエ」事業化に向けて活動中。

そうかぞく

草加市創業スタートアップセミナー「わたしたちの月3万円ビジネス」の卒業生の有志によって2016年に設立された団体。家事育児をしながら「やりたいことを仕事にする」ために頑張る女性たちの集まりで、次々と小さなビジネスを生み出している。ワークショップイベント＆ショップ「waku work lab」を定期的に開催し、地域のイベントにも参加。代表は廣政幸子さん。家守会社「つなぐば家守舎」の松村美乃里さんもそうかぞくのメンバー。

第13回 みんなでつくる “ドレミファそうか”コンサート

平成30年1月28日 草加市中央公民館ホール

開場：午後1時 開演：午後1時30分

出演 草加市内中学校有志アンサンブル（サクソフォン）
草加中学校吹奏楽部
草加市演奏家協会会員 草加薫職組合
ドレミファハンドベル隊 青柳こども会

入場料 1,000円 高校生以下無料

テーマ メモリー

結婚行進曲
花のワルツなど



主催：草加市演奏家協会・ドレミファそうかコンサート実行委員会 お問い合わせ：草加文市化会館 048-931-9977 実行委員会（小俣）048-936-0611

そうか まちだより

振り込め詐欺ストップ！

昨年9月9日の朝9時、草加駅東口ヨーカドー前のカーソンプラザでは、大勢の警察官とさまざまな団体の人々が集まっていた。ステージの横断幕にある文字は「特殊詐欺被害抑止の草加市民総ぐるみ統一行動出発式」（以下「出発式」）。

草加市全体で警察官だけではなくさまざまな団体の協力者が、市民のみなさんに対して「振り込め詐欺」の注意喚起のために1軒1軒たずねて説明するという。

実は昨年草加市は、振り込め詐欺が88件発生、その被害総額は2億2000万円と、埼玉県でワースト1。前年を大きく上回り、過去最高の被害となっているのだ（※1）。

被害者を騙して金銭を振り込ませる詐欺は「オレオレ詐欺」と言われていたが、2004年に「振り込め詐欺」という呼び名に統一された。すでに10年以上以前から存在し、さまざまなメディアでも多く取りあげられてはいるが、欺しテクニックは日々進化しており、なかなか減らない。

「出発式」では、草加警察署長の宮澤弘さんが「被害者のほとんどの方が『まさか自分が』とおっしゃっていました」と現状を説明。加害者は口がうまいので、いったん電話に出してしまえばつい話に乗せられてしまうという。だから、一番の**防止策は電話に出ないこと**。すべて留守電にしておけば、後からいくらでも確認することができる。

出発式の最後には、県警のヘリが上空を飛んでデモストレーショ



ン。特に宣伝していたわけではないが、ヘリコプターが飛んでいれば気が付く市民も多いので「何かあったかな？」って思ってもらえればそれでもいい」（草加警察署地域課長の澤田好一さん）。

草加駅前では注意喚起の放送をしたり、駅前ビジョンでの告知、イベント時のパンフレットと一緒に注意を促すちらしを配布するなど、少しでも被害を減らすと懸命の努力が続いている。

避難所を運営するための防災訓練

昨年11月19日、8時半に響いた防災訓練の行政無線。普通の避難訓練とくらえて近くの小学校などに出向いた方も多かったかもしれない。実は今までとはちよつと違った形の防災訓練だった。「広報そうか 12月5日号」のトップに掲載されているが、草加市町会連合会による、「市内一斉避難所運営市民防災訓練」だったのだ。

市内の小中学校が災害時に避難場所になっていることはよく知られているが、その運営を担っているのは該当地区の自治会・町会であることは意外と知られていない。

筆者は、編集部が一番近い高砂小学校の訓練に一般人として参加した。参加者の番号札をもらってアリーナ（体育館）に行くと、すでに運営訓練に参加する人々がそれぞれの担当班のゼッケンを付けて集まっていた。訓練開始の合図と共に、それぞれの役割を果たすべく散っていく。

アリーナでは、避難所設営のための防寒シートを敷く作業が始まり、他ではそれぞれ、掲示板の設置や簡易トイレの設置、救護班の訓練、食料（アルファ米）の準備などが行われていた。掲示板の前では、広報班の方が、地震時の注意点や掲示板の使い方をわかりやすく説明。

高砂小学校避難所を運営する担当町会・自治会は、吉町、手代町、高砂1丁目など。ほぼ小学校の通学区と重なっている。避難所運営の大枠は草加市がマニュアルを用意

しているが、準備方法や細かい手順などは各町会に任されているとのこと。自分の住んでいるエリアで避難訓練があったら、なるべく参加して、いざというときに備えておこう（※2）。

そうか革職人会設立15周年！ 草加ランドレザーフェスティバル

昨年11月18日と19日、草加市民体育館にて、「そうか革職人会設立15周年記念特別販売会／草加グランドレザーフェスティバル」が開催された。

例年、春先にワークショップ中心のレザーフェスタを、12月に販売中心のレザーフェスタを開催していたが、今年は15周年ということで、販売とワークショップを同時に開催。また、より多くの人に来てもらおうと、ハハフェスを主催した「SOS＊MAMA」に声を掛け、「スマイリーママ」「そうかぞく」などが参加して女性・子ども向けのワークショップを併設。クリスマスがらみのさまざまなアイテムが並び、華やかな雰囲気となっていた。

この時期の「レザーフェスタ」は、草加駅東口駅前のアコスホールで行われるのが恒例となっており、今回は場所がかわって多少とまどった方もいたようだ。ただ、隣にある草加市文化会館

ホールでは「国際ハーブフェスティバル ファイナルコンサート」が開催され、イベント終了時には多くの人が訪れたとのこと。もちろん恒例の「福引き」も実施。



バッグや小物などの革製品が当たるので楽しみにしている人も多い。会場では「草生人」の革の特集号も置いていたことができた。多くの人に手に取ってもらい、「草のまち草加」をもっと知ってもらえたらと思う。

そうか公園修景池の水が抜かれた！

昨年12月18日、そうか公園でテレビ東京「緊急SOSー池の水ぜんぶ抜く大作戦6」のロケが行われた。

そうか公園の修景池は作られてから27年間「掻き掘り」をしたことがないため、水質が悪化し、外来種が多数生息しているという。

当日現場に行ってみると、瓢箪形の池の中央細くなった部分の水を堰き止め、南半分の水を北半分に流し込むことで抜いていた。3日間ほどかかっているそうだ。

ロケに参加して作業に携わったのは田中直樹さん（ココロ）、平野ノラさん、環境NPO「JOE」メンバー、水抜き作業担当の丸三興業、環境省の政務官と職員、田中草加市長、そして地元草加の有志など多数。

水が抜かれた池はかなりのヘドロが溜まり、みんさん悪戦苦闘。1歩ずつ足を引き抜きながらの前進で、寒い中頑張っていた。

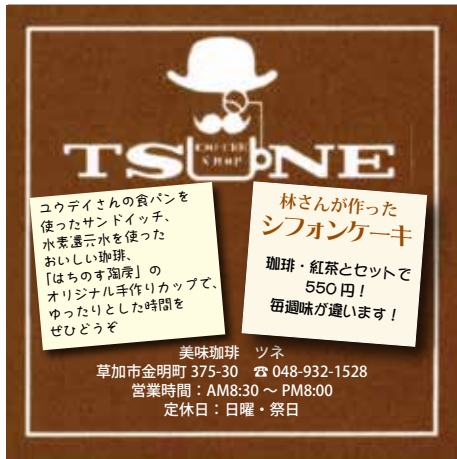
テレビ放映は1月2日。現場では把握できなかったが、ブルギルなど外来種がなんと3千匹も獲れていた！ コイも外来種だそう。詳細は草加市の公式ページをどうぞ（※3）。



途中、幼稚園や小学生も見学に訪れた。捕った魚は、大きな水色の水槽へ

※1：昨年の数字は草加警察署地域課長 澤田好一さんに取材。※2：各エリアにある避難所は、昨年全世帯に配布された『草加市ハザードマップ「そうか災害地図」～アナタノ家モ載ッテマス～』に掲載されているので、確認を。（【草加市ハザードマップ】で検索）※3：草加市ホームページの「そうか公園修景池の「緊急SOS！池の水ぜんぶ抜く大作戦6」が放送されました」参照。（【草加市 池の水全部抜く】で検索）

草加の 2017 年



TSUNE
美味珈琲 ツネ
草加市金明町 375-30 ☎ 048-932-1528
営業時間：AM8:30 ～ PM8:00
定休日：日曜・祭日

コウデイさんの食パンを
使ったサンドイッチ、
水素還元水を使った
おいしい珈琲。
「はちのす珈琲」の
オリジナル手作りカップで、
ゆったりとした時間を
ぜひどうぞ

林さんが作った
シフォンケーキ
珈琲・紅茶とセットで
550円！
毎週味が違います！



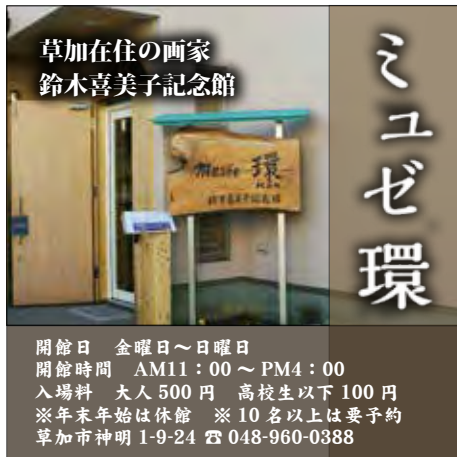
chavi peltto
趣のある野菜たち

畑からお届け！
特別特産野菜

産地直送野菜
有機野菜

ベジデリ&玄米お弁当

ファーマーズハウス チャビペルト
340-0034埼玉県草加市東川町2338-3
TEL. 048-961-7063
www.chavipeltto.co.jp



草加在住の画家
鈴木喜美子記念館

ミユゼ環

開館日 金曜日～日曜日
開館時間 AM11:00 ～ PM4:00
入場料 大人 500円 高校生以下 100円
※年末年始は休館 ※10名以上は要予約
草加市神明 1-9-24 ☎ 048-960-0388



おもてなし宣言
無料休憩所
草加宿

神相庵

旧日光街道沿い。
名勝「草加松原」の散策の起点として
ご利用下さい。

開館時間
11時～16時
月曜休館
(祝日の場合は翌日)

★美味しいお茶でおもてなし
★2階はギャラリーになっています

〒340-0012
草加市神明 1-6-14
048-948-6882
info@shinmeian.com

「2018年草加風景カレンダー」
販売中！一部 400円
STORES <https://soseijin.stores.jp/>

月	日	イベント名
1	1	元旦ラジオ体操（草加松原遊歩道）
	1～7	草加宿七福神めぐり
	7	草加市民音楽祭 合唱の部（草加市文化会館）
	9	新成人のつどい 「RESTART 2016（ハタチイロ）」（獨協大学 35 周年記念館アリーナ）
	21～23	学校給食展（草加市文化会館）
	未	草加市ハザードマップ作成、配布
2	3	節分（草加神社、瀬崎浅間神社、東福寺など）
	4	中央図書館古本市（中央図書館）
	12	ドレミファそうかコンサート（草加市中央公民館）
	15	草加市公式ホームページリニューアル
	19	草加ミュージック・フェスティバル（アコスホール）
	25	草加レザーフESTA 2017 革で作ろう！革で遊ぼう！（高砂小学校アリーナ）
3	5	草加武道まつり（記念体育館）
	12	草加松原太鼓橋ロードレース大会
	21～4/16	札幌河岸公園桜並木ライトアップ
	26～4/2	草加さくら祭り（葛西用水沿い）
4	8・9	綾瀬川で和舟の乗船体験（綾瀬川左岸広場第2ラグーン出発）
	15～23	草加 Welcome Festival 2017（草加駅東口周辺商店街）
	15～5/14	端午の節句 草加宿つるし飾り展（歴史民俗資料館）
	29	そうか公園まつり / フリーマーケット（そうか公園）
	29	春の子どもフェスタ（綾瀬川左岸広場）
6	6	草加さわやかさん委嘱式及びお披露目会
	11	草加都市農業フェア（草加中央防災広場）
	18	第14回 国際交流フェスティバル 2017 草加国際村一番地（獨協大学）
7	1・2	浅間神社例大祭
	1・2	草加松原夢祭り（草加松原遊歩道ライトアップ）
	2	草加朝顔市（草加松原遊歩道（百代橋南側））
	15・16	八幡神社祭礼
	22・23	よさこいサンパフェスティバル 2017（草加駅西口周辺）
8	5	第13回草加市民納涼大花火大会（そうか公園）
9	2・3	神明宮大祭
	3	草加和太鼓祭り（草加市中央公民館）
	9	日本の響 草加の陣（草加市文化会館ホール）
	16	第17回草加市子育てフェスタ（草加市子育て支援センター・さかえ保育園）
	18	市民音楽祭 吹奏楽フェスティバル（草加市文化会館ホール）
	27	ハハフェス（アコスホール）
	30・10/1	中央公民館まつり（草加市中央公民館）
10	1	第15回草加宿場まつり（旧日光街道沿い等）
	9	草加スポーツフェスティバル 2017（綾瀬川左岸広場、市内体育施設）
	29	第8回草加ふささらダンスフェスティバル（草加市文化会館ホール）
	20～28	草加市美術展（市展）（アコスホール）
11	3	草加ふささら祭り・草加商工会議所まつり（草加松原遊歩道、県道足立越谷線、草加市文化会館駐車場、綾瀬川左岸広場等）
	4・5	高校演劇 fair in そうか（草加市中央公民館）
	3・4	獨協大学雄飛祭
	12	街グル in 草加 2017 / 商店街フェスティバル & 百緑市 in 草加宿（草加小学校校庭・旧日光街道）
	12	第24回福祉まつり in 草加（草加駅東口周辺）
	18	国際ハーブフェスティバル フェスティバルコンサート（草加市文化会館ホール）
	19	国際ハーブフェスティバル ファイナルコンサート（草加市文化会館ホール）
	18・19	草加グランドレザーフESTA 15 周年特別販売会（市民体育館）
12	9	草加市民音楽祭 器楽の部（草加市文化会館ホール）
	10	草加市農業祭（市民体育館・文化会館駐車場）
	18	テレビ東京『緊急 SOS! 池の水ぜんぶ抜く大作戦』番組収録（そうか公園）
	24	歌とダンスのファンタジー IX「Xmas に想像したこと～遠い遠いいつかの私～」（草加市文化会館ホール）

月々想々 編集より

2016年11月23日、新田に行つて「つくりにおいてよ!!」を見学したのが最初でした。個性的なクリエイターたちがたくさんいることに驚きました。ここには重要なことが起こっていると感じ、金澤萌さん、RIKKENさん、大串好子さんにインタビューもさせていただいたのです。

2017年4月30日、獨協大学前駅東口の商店街で、初めての街バルを楽しみました。

パインアベニュー商店会の吉田良一会長にお会いし、若々しい役員たちの活躍があることがわかりました。そこでみなさんにお話をお聞きすることにしました。

どちらも今も刻々と状況が変化しています。現時点でのドキュメンタリーとして読んでいただけたらと思います。(じ)

「草生人」を創刊してから、まちの活性化にかかわるイベントや市の催しを時間があるときは行くようにしていました。その間に、「そうかリノベーションまちづくり」が始まって追いかけることになりました。取材を通して知っていた人々がどんどん繋がって、新しい動きが生まれてくることに、とても興奮しました。ふだんの生活をしている人にとっては、新しい店ができていく、としか見えないけれど、見えないところで大勢の人が種を蒔いています。今年はそれが次々と芽吹くはず。楽しみでしかたがありません。

興味のあるキーワードがあったら、ぜひSNSで調べて、関連したイベント、ワークショップに行ってみてください。(よ)

応援ありがとうございます

草生人メンバーズサポート会員の皆さま

戸田直斗 様	本多秀康 様	野口卓爾 様
大橋欣之 様	棚瀬高志 様	坂齊由美子 様
細川昭二 様	中沢進 様	吉田光明 様
山川百合子 様	矢島民夫 様	真淵りか 様
正木裕子 様	山田敬子 様	野口貴史 様
杉田和美 様	畠中優 様	宮原弘 様
おるがん 様	磯崎直人 様	朝倉将彦 様
若山富昭 様	小泉浩伸 様	込山順邑 様
祝原暁 様	北嶋敏久 様	うさぎのしっぽ 様
広瀬隆次 様	染野政夫 様	facebook [I Love 草加] 有志 様
森森正夫 様	大月和久 様	中岡康人 様
松田洋一 様	上野恭正 様	浅古リナ 様
安達宜秀 様	原謙一 様	大野太郎 様
松下成孝 様	今井宏 様	飯田麻美 様
松本雪久 様	西山明廣 様	岡野知恵子 様
四津昭夫 様	今村寛 様	風間俊雄 様
丸野典子 様	宮崎英治 様	関幸彦 様
荒木梨花 様	川井大輔 様	

「草生人」を応援してくださる「草生人メンバーズサポート会員」随時募集中！詳しくは「草生人 Web」で

そうか革職人会

そうかレザータウン構想、めざせアジアのフィレンツェ

そうか革職人会は、草加および近隣の皮革産業に携わる人が集まった皮革産業ネットワークです。

公式 Web ページ
<https://www.soka-kawa.com/>



イベント

草加レザーフェスタ
革でつくる！革で遊ぶ！／革製品特別販売会
草加商工会議所まつり
モノづくりダイレクトセールに参加

市内販売店

ぱりっせ
草加市文化会館下：草加市松江 1-1-5
草加市物産・観光情報センター
草加駅西口南側高架下：草加市氷川町 1978



伝統の技と職人のこだわり



木の音.konon



電力を必要としない
エコロジカルな木箱のスピーカー
<https://minne.com/yosinsky>

草加
大橋工務店

和食処 TAIRA



落ち着いた空間で繊細な旬の味覚をご堪能ください

平コース
お造り御膳
魚煮付け御膳
ステーキ御膳
日本酒・焼酎・ワイン各種

18:00～23:00 ラストオーダー 22:00 水曜日定休
ご予約承ります ☎ 048-944-1130

草加 2-20-13 (草加市立病院東側) ☎ 048-944-1130

炭火煎珈琲 茶房

美味しい珈琲で
くつろぎのひとときを



人気の自家製かぼちゃプリン

平日・土曜 9:00～19:00 日曜・祝日 10:00～19:00
ラストオーダー 18:00 水曜日定休



あなたの生活と
企業の繁栄を
アシストします。

代表社員 税理士
長谷部 健一

代表社員 税理士
藤波 篤史

税理士法人 Life & Company Assist

L&Cアシスト

〒340-0014 埼玉県草加市住吉 1 丁目 4-12-101
Tel:048-924-9244 Fax:048-924-2554 <http://www.townnavi.net/l&c-assist/>
e-mail: hasebe-ken@tkcnf.or.jp

アンティークショップ&カフェ

おるがん

草加市金明町 665 ☎ 048-942-5323
定休日：月・火
時計の電池交換いたします。
国産・ブランド・Gショック 500 円！

レンタルボックス&カフェ

おるがんモール

手作り品・リサイクル雑貨・趣味で集めたお宝を販売する
コーナーを 1 か月 2,500 円から、300 人が出店中です。
南越谷店：越谷市南越谷 1-13-7 ハローマート 3F
☎ 048-986-5326
越谷店：越谷市越ヶ谷 1-1-12 エガワプラザビル 2F
☎ 048-967-1170